

事務事業名	春の夜の図書館読書探検隊実施事業				☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連			
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会		所属課	生涯学習課	
施策名	計画 21	生涯学習の推進			所属係	図書館班		課長名	野本 立一	
基本事業名	体系 77	学習・スポーツの啓発			担当者名	坂本 香織		電話番号 (内線)	096-242-5555	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠 図書館法・文字活字文化振興法				
事業期間	☐ 単年度のみのみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 15 年度 ~) (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) 西合志図書館(以下、図書館)に、閉館後、本事業の対象者である児童を集め、ゲームや星空観望会を通じ身体的・知的な好奇心を呼び起こさせ、図書館に宿泊させる。児童に、閉館後の図書館という普段利用する図書館とは違った雰囲気を存分に味わいながら、本の世界を楽しんでもらう。 (業務の内容) 市内小学校6年生への告知と募集受付。定員超過の際は、抽選にて参加者決定。事業当日は、参加者へのオリエンテーション後、親睦を深めるレクリエーション(ゲーム等)を行い、入浴、夕食を取る。その後、図書館天文台での天体観察、ボランティアによる読み聞かせを行い、館内に布団を敷き消灯まで読書。翌日は布団の片付けと朝食後、昨晚読んだ本を皆で紹介しあい終了。解散。 (予算の内訳) 消耗品費に支出する						総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)		0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間		
							人件費	人件費計 (B)		0
							人件費	トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

合志市の小学6年生の希望者20名が、西合志図書館に宿泊し、レクリエーションや天体観察、夜のおはなし会等を体験した。就寝まで館内の蔵書に触れ、読書し、翌朝、気に入った本を全員の前で発表した。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

読書探検隊参加者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

読書活動や図書館への関心呼び起こし、本を通じ友人の輪を広げてもらう機会を作ることを目的とする

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

学習やスポーツにに取り組むことの必要性を認識できる。施設や学習内容を知ることができる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 開催回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 参加人数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 参加者へのアンケートで以前より読書等に興味を持てた人数の割合	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 学習やスポーツに取り組んでいないが今後取り組んで見たいと思う市民の割合	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円		3	3	3	3	3	
			事業費計 (A)	千円	0	0	3	3	3	3	3
	人件費	正規職員従事人数	人			6	6	6	6	6	
		延べ業務時間	時間			60	60	60	60	60	
		人件費計 (B)	千円	0	0	238	238	238	238	238	
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	241	241	241	241	241	
活動指標			ア 回			1	1	1	1	1	
			アイウ								
対象指標			ア 人			20	20	20	20	20	
			アイウ								
成果指標			ア %					70	70	70	
			アイウ								
上位成果指標			ア %								
			アイウ								

合志市

事務事業名	春の夜の図書館読書探検隊実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行により、4月23日が「子ども読書の日」と定められたが、この「子ども読書の日」関連事業として、子どもたちに読書や図書館への興味を持ってもらおうと始めた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
対象者に関して、開始後平成17年度までは、旧西合志町内の小学5・6年生20名を対象者としていたが、合併後の平成18年度は、合志市内の小学6年生20名へと変更した。他は変化は見られない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
参加した児童からは、「色々な本が読めて楽しかった」「本を通して他校の友達ができた」等の意見があり、参加者の保護者からは、「子どもがとても喜んでいて」「今まで本や図書館にはまったく興味がなかったが、参加後は本を読み始め、一緒に図書館に行こうと言い出した」などの意見が寄せられた。抽選にもれて参加できなかった児童の保護者からは「春だけでなく秋にも行ってほしい」「抽選は公開抽選にしてもらいたい」などの意見が寄せられた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 市民の知的要求に応え、生涯学習を支える。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 子どもの読書離れが進むなか、「子どもの読書活動の推進に関する法律」でも定められているとおり、地方公共団体が子どもたちの読書推進を図る役割をになっているから。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 現状では、図書館に宿泊する人数としては、効果目的の達成度や安全面のことを考えて経験的に現在の20名が妥当であると考えられる
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 参加人数、内容ともに適正である
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 全く読書に興味になかった児童が、参加後、本を読み始めたという保護者からの意見のとおり、それまで読書に興味を持たなかった子どもが、読書に興味を持つ大きな機会のひとつが無くなってしまう。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似の目的(たくさんの本に囲まれ、就寝まで存分に様々な本を楽しむことで、読書に興味を抱く)をもつ事業が他にない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 必要経費は、参加者の自己負担であるため。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 周知のためのポスター製作など、当日までの準備には手間はとらない。業務時間の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 食事代や寝具代、入浴料などの費用は参加者が負担しているため

合志市

事務事業名	春の夜の図書館読書探検隊実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 <table style="width:100%;"> <tr> <td style="width:15%;">① 目的妥当性</td> <td style="width:15%;">☒ 適切</td> <td style="width:15%;">☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>維持</td><td></td><td>○</td><td>×</td></tr> <tr> <td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 																						

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果 <table style="width:100%;"> <tr> <td style="width:15%;">① 目的妥当性</td> <td style="width:15%;">☐ 適切</td> <td style="width:15%;">☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 									
① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr> <tr> <td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(6) その他2次評価会議で指摘された事項 																						